

紀尾井だより

7/8 July / August 2020 [Vol.142]

25
KIOI HALL
NIPPON STEEL
Arts Foundation

インタビュー

クリスティアン・テツラフ

紀尾井 江戸 邦楽の風景

第20回 隅田八景 ～吹けよ川風～

連載

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

オーストラリアとクラシックをめぐる3話

開館25周年に寄せて

～皆さまからのメッセージ～



テツラフ・カルテット © Giorgia Bertazzi

ベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲



「ベートーヴェンの晩年の3年間は、ほとんど弦楽四重奏曲しか書いていませんでした。それらは彼の人生そのものと関連する、とてもパーソナルな音楽、非常に自由な作品だと思います。シンプルで、とても楽しげなところもあれば、非常にナイー

ヴで感情に満ちた部分もある。子供らしい部分もある。深い部分もある。本質的で密度の高い、心の底から湧き上がってくるような音楽という意味で、ベートーヴェンの作品のなかでも、その傾向が最も強い作品群なのです。

作品130(第13番)の第6楽章フィナーレは、初稿の大フーガ作品133で演奏します。第1〜5楽章にはすべて異なる個性があり、大フーガはまさにその全体のバランスを取って締めくくるとにふさわしい。改作した第2稿のフィナーレも詩的でとてもクールですが、私は迷わず、センサーシヨナルな大フーガのほうを選びます。

その大フーガと、作品132(第15番)の緩徐楽章は、どちらも15分を超える長大な楽章です。大フーガのほうは非常に華々しく、祝祭的で、世界に打ち勝つのだというような巨大なイメージがあるのに対して、作品132の第3楽章モルト・アダージョのほうは、とても深い、宗教的な



© Oliver Borchert

楽章です。この2つの対比を聴くことで、プログラム全体の大きな緊張感を体験していただけだと思います。

最後の弦楽四重奏曲である作品135(第16番)の終楽章の冒頭には、有名な『かくあらねばならぬか? (Muss es sein?)』『かくあるべし! (Es muss sein!)』という言葉が掲げられています。ベートーヴェンは最初、この作品を3楽章までで終わら

クリスティアン・テツラフ (ヴァイオリン)

取材・文／宮本 明

ベートーヴェン生誕250年と開館25周年が重なる今年、クリスティアン・テツラフが紀尾井ホールに戻ってくる。2014年にカルテット、2015年にバッハの無伴奏全曲で聴衆を魅了したテツラフ。二夜にわたる「ベートーヴェン・セレブレーション」は、ベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲を核に、ピアノ・ソロやブラームスの三重奏曲、ドヴォルジャークの五重奏曲を組み合わせるという型破りな、しかし充実した構成だ。プログラムについて、ベルリンの自宅でステイホーム中の彼とウェブ通話をつなぎ、オンラインで語ってもらった。取材は5月中旬。ドイツでは、2か月にわたる厳しい外出制限が緩和され始めた時期だ。すでに8週間のあいだ、7歳、5歳、4歳の3人の子供とつねと一緒に過ごしているテツラフは、忙しくてヴァイオリンを弾く時間がほとんど取れないのだと、子煩悩な良き父親ならではの悩みも明かしてくれた。



クリスティアン・テツラフ © Giorgia Bertazzi

せようと考えていました。そのころのベートーヴェンは体調も悪く、とても弱っていたのですが、それでもやはりもう一つ、最後の楽章が必要だと考えて、力を振り絞って書いたのがこの楽章です。その決意、疲れ切っている自分に闘いを挑んだのがこの言葉だと思うのです。よく、借金返済

がどうだとかいろいろなエピソードと結びつける説がありますが、私はそれは全然違うと思っています。『人生というのは、最悪な時があれば最良の時もある、悲しいこともあれば楽しいこともある。愛情と共感に満ち溢れているのが人生なのだ』。私たちにそう語りかけているのです」

ラルス・フォークトとの共演

「共演するラルス・フォークトは比類のない最高の音楽家であり、最も深いところまでつながっている最高の友人でもあります。その2つの条件が揃ったこの組み合わせは、私にとってこれ以上ない幸福です。

彼がソロで弾くベートーヴェンの最後のピアノ・ソナタには、晩年のベートーヴェンが弦楽四重奏曲でたどり着いた境地と重なるものを感じます。フォークトの素晴らしいピアノは、それをいっそうはつきりと示してくれると思います。

ブラームスのピアノ三重奏曲は、ベートーヴェンのイ短調の弦楽四重奏曲作品132と深いつながりを感じます。ブラームスでは、緩徐楽章の第2楽章がイ短調なんです。そこに込められた深い告白は、



ラルス・フォークト © Giorgia Bertazzi

ベートーヴェンに近いと思います。

ドヴォルジャークの選曲理由は、よりシンプルです。この五重奏曲が祝祭感に溢れているからです。紀尾井ホールの開館25周年という、素晴らしい記念の年を祝うにふさわしい、みんなで歓声を上げるような作品です。といって、決して凡庸ではない。非常に深い、人生の喜びを表現している作品でもあります」

日本のファンへのメッセージ

「私は、どんなに困難なときであっても、人々が微笑みを浮かべてコンサート会場を後にすることは許されると思っています」

ベートーヴェンの真髄に浸る二夜

クリスティアン・テツラフ ベートーヴェン・セレブレーション

出演：クリスティアン・テツラフ、エリーザベト・クフェラート（ヴァイオリン）、ハナ・ヴァインマイスター（ヴィオラ）、ターニャ・テツラフ（チェロ）、ラルス・フォークト（ピアノ）

I 9/25
金 19:00

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第32番ハ短調 Op.111
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第15番イ短調 Op.132
ドヴォルジャーク：ピアノ五重奏曲第2番イ長調 Op.81, B.155

II 9/27
日 14:00

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番変口長調 Op.130
ブラームス：ピアノ三重奏曲第2番ハ長調 Op.87
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第16番ハ長調 Op.135

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイト等でお知らせいたします。

す。予定どおり9月に日本の皆さんの前で演奏できたとき、わたしたち人間がこの困難を乗り越えたことを、皆さんと一緒に祝いたい。そして、つらい思いをされた方々に、音楽を通じて何かしらの慰めを提供することができれば幸せです。皆さんとともに、人生の美しさ、素晴らしさをお祝いしましょう」



邦楽の風景 総集編

江戸時代の風景、風物、生活等をテーマとするお話と、邦楽演奏を視覚的な要素も織り込んでお聴きいただくこのシリーズは、「深川」「吉原」「酒」から始まり、第4回に「隅田川」をテーマにお届けしました。江戸の町の東側を流れる隅田川は、江戸の人々にとって、水害や大火にたびたび見舞われた現場でありましたが、同時に生活や憩いの場としてもなくてはならない存在でした。文化の面でもとりわけ、能の「隅田川」を元として数多くの隅田川物が生み出され、芝居では、川、橋、そしてその両岸が重要な舞台となりました。そこで、まだまだ語り足りない隅田川第2弾をお贈りします。

黒御簾音楽で聴く、再び！

ご記憶に残っている方も多いかもかもしれません。第18回「新吉原」で大好評でした黒御簾音楽を再びご堪能いただけます。

演奏とともに絵や詞章など視覚的に邦楽を体感するシリーズもいよいよ最終回。20回目は、「隅田八景」が舞台です。

第20回 隅田八景 ～吹けよ川風～

9/18
金
14:00

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイト等でお知らせいたします。

黒御簾音楽とは、歌舞伎の舞台袖で板囲いをし、黒いすだれを下げた黒御簾で演奏される歌舞伎囃子のことで、芝居中の伴奏や効果音、また情景の描写など、さまざまな場面で活躍します。「隅田川」といえば東京の東部一帯を流れ東京湾に注ぐ川。芝居にも頻繁に出てきます。柳橋から吉原へ上って、深川へと下る川の旅を音楽に乗せてゆるりとお楽しみください。

さらに前回に続き今回も、出演者と解説者のトークセッションを予定しています。実際の歌舞伎舞台でのエピソードや歌舞伎の知識なども交えながら、芝居を彩る黒御簾音楽の豊かさを楽しく知ることができるとしよう。

清元「お染」と隅田川

お染久松は、1710(宝永7)年1月6日に大坂で油屋の娘お染と奉公人の丁稚久松が中心とした事件を劇化した作品で、人形浄瑠璃や歌舞伎の『新版歌祭文』

が有名です。その影響を受けて鶴屋南北が作った『於染久松色読販』では、設定を大坂から江戸浅草に変え、お染をはじめ七役を、看板役者の早替りで演じてみました。その歌舞伎舞踊が、清元「お染」(道行浮嶋鷗)と、常盤津「お光狂乱」です。清元「お染」は、浅草の大店のひとり娘のお染が、親の決めた

縁談が嫌で家を飛び出し隅田川の土手までやって来ます。それを恋仲の久松が追いかける。ちょうど居合わせた猿廻しが二人を万歳で祝うものの、当の両人は心中の覚悟を決めるといってお話です。お染久松ものが題材として長年親しまれてきたことは、この南北の作品が中心事件から一世紀以上経っていることからも



歌川広重「两国柳橋」(国立国会図書館蔵)

うかがえます。舞台が大坂から江戸へ、そして隅田川となれば、当時の江戸の人はより身近な出来事として感じることできたでしょう。常盤津「お光狂乱」は、その続きになります。こちらは新たに始まるシリーズ「浮世絵で楽しむ邦楽」でお楽しみください。

クラシック音楽の
テーマに基づく3つの話

オーストラリアと クラシックをめぐる

3 話

広大な面積を持つオーストラリア。歴史ある都市を中心に、長く音楽を育んできました。

1 シドニーのオペラハウス

南半球の大陸であるオーストラリアを映像などで紹介するときに、必ずと言っていいほど登場するのが、シドニーにあるオペラハウスと巨大な一枚岩(世界で2番目の大きさと言われる)であるエアーズロック(先住民の言葉ではウルルと呼ばれる)でしょう。

長く先住民が暮らしていたオーストラリアにヨーロッパの人々が到達したのは17世紀のころ。そして1770年

にはイギリス人の植民が始まりました。植民が開始されてからは教会音楽を含め、イギリスの民俗音楽などもオーストラリアで演奏されていたと思われませんが、オーストラリアで本格的にクラシック音楽への要求が高まるのは20世紀に入ってから。各地にオペラを上演する劇場などが建てられるようになりました。

シドニーのランドマークとなったオペラハウスが完成したのは実は1973年のこと。建設計画は1940年代からスタートし、デンマーク人ウツソンの斬新な設計案が採用され1959年に工事が始まりましたが、建物の複雑な構造ゆ

えに完成までかなりの時間がかかりました。現在はオーストラリアのクラシック音楽文化を支える重要な拠点となっています。

2 グレインジャーの活躍

当初はイギリスやヨーロッパ各地などからさまざまな音楽家がオーストラリアにやって来て活動をしていましたが、やがてオーストラリア生まれの作曲家も登場します。その代表がバーシー・グレインジャー(1882〜1961)。10歳の時にメルボルンでピアノのリサイタルを開き、ヨーロッパに留学して、あのグリーグとも親交を結びます。彼はヨーロッパで活躍した後、アメリカに移住し、そこを終の住処としました。グレインジャーは「ブリッグの定期市」などイギリスの民謡をベースにした作品で有名ですが、最晩年には電子音楽にまで手を伸ばすなど、時代の先を行く音楽的アイディアの持ち主でした。

3 オーケストラの創設と放送協会

オーストラリアのオーケストラ創設に深く関わったのがオーストラリア放送協会(ABC)です。1930年代から活動していたアマチュア・オーケストラをサポートし、シドニー交響楽団(1946年創設)、タスマニア交響楽団(1948年創設)など、定期公演を行うプロフェッショ

ナルなオーケストラを誕生させました。メルボルン交響楽団はそれよりも先の1906年に活動を開始していましたが、岩城宏之、尾高忠明など日本人指揮者とも深い関わりを持つオーケストラです。シドニーを本拠とする室内オーケストラ、オーストラリア室内管弦楽団が創設されたのは1975年。キャンベラ生まれのリチャード・トネッティは、シドニー、スイスのベルンで学んだ後、1989年にそのメンバーとなり、90年からは芸術監督としてこの世界有数の室内オーケストラを率いています。彼の自由で豊かな音楽的発想はまさにオーストラリアの文化を代表するものと言ってよいでしょう。

文 片桐卓也



オーストラリア室内管弦楽団 © Paul Henderson

オーストラリアをめぐる紀尾井ホール公演

9/11
金
19:00

9/12
土
14:00

紀尾井ホール室内管弦楽団
第123回定期演奏会
指揮：リチャード・トネッティ

10/7
水
19:00

Mitsubishi Corporation Presents
室内オーケストラ・フェスティバルII
オーストラリア室内管弦楽団
with リチャード・トネッティ

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイト等でお知らせいたします。

開館25周年に寄せて

紀尾井友の会・紀尾井ホール室内管弦楽団・紀尾井サポートシステム個人会員の皆さまから
紀尾井ホール開館25周年に寄せてメッセージをいただきました。

新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、公演開催自粛の最中にもかかわらず、たくさんのメッセージが寄せられました。
この場を借りて感謝申し上げますとともに、いただいた中から一部をご紹介します。

※掲載にあたり、体裁の都合上、本文を一部編集しております。

開館のころより足を運んでおり、昨年には友の会にも入会。
ベートーヴェンの曲のときがそのほとんどです。演奏者と聴く
側は、双方同じように整えて臨みたいと、コンサートの前日は
極力休肝日しているところ。ホールの25周年とベ
ートーヴェンの生誕250周年が重なりましたね。

Beethoven 250 (東京都) / 友の会会員

「継続は力なり」素晴らしいです！何日も25年も…何人もの
アーティストさんの演奏を、あの響きの良い落ち着いたホール
でどれ程多くの人々がその音楽に酔いしれたことか…今は
休息中ですが、また桜並木の間を歩いて聴きに行きたい！早
くその日が来ることを祈るばかりです！Congratulations♪

Sagecat (東京都) / 友の会会員

紀尾井ホールで前の方の座席ですと、スタインウェイもよく見
えるのですが、間近に見るスタインウェイはとても綺麗でいつ
見ても惚れ惚れします。スタインウェイを管理するスタッフの
方が心を込めて手入れをされていることが伝わってきます。
伊藤恵さんプロデュースのピアノ！ピアノ！！ピアノ!!! では、
紀尾井ホールで常設されている3台のスタインウェイが集まり
夢見心地でした。今現在、コロナで自粛ですが、これからも、
紀尾井ホールでスタインウェイが鳴り響くのを楽しみにしてい
ます。開館25周年おめでとうございます。私自身は紀尾井友
の会の会員になって21年になりました。これからもよろしくお
願ひします。

Qoo (埼玉県) / 友の会会員

25周年おめでとうございます。紀尾井ホールは最初敷居が
高かったのですが、その後、入りやすくなって、友の会会員を
続けています。木の香りに包まれたホールは、ヴェニス・バ
ロックや明治学院バハ・アカデミーなどの古楽にぴったりで、
いつも清々しい気持ちにさせてくれます。隠れ家的な小ホ
ールでは、兼好や雀々といった実力者の独演会がさりげなく行
われたりして、本当に油断ならないところです。もうひとつ嬉
しいのは、「明日への扉」の招待。美形ヴァイオリニストやユ
ニークなサクソ奏者。演奏自体も予想以上に楽しかっただ
けでなく、その後、いろいろなコンサートやテレビでその名前
を見つけ、活躍を確認できるのも楽しみです。音楽は、何と
言っても生で聴くのが一番。また、あの入り口でチケットを
切ってもらう日が1日も早く戻ってくるよう願っています。

富川泰雄 (東京都) / 友の会会員

紀尾井ホールの開館を数か月後に知り、紀尾井シンフォニ
エッタ東京(KST)の演奏を聴いたのが最初で、それから25
年のお付き合いとなりました。KSTの定期会員となり、小編成
オーケストラ用の曲など多くの曲を知り、数多くの素晴らしい
指揮者やソリストの演奏に接することができました。P.レーゼ
ルのピアノをはじめ多くのリサイタルや室内楽も大切な思い
出です。また、日本の伝統音楽もいろいろ聴かせていただい
ております。これからも、この素晴らしいホールですぐれた演
奏を聴かせていただくことを楽しみにしております。

マツダAF (神奈川県) / 友の会会員、KCO定期会員

紀尾井ホールとの出会いは、御茶ノ水にあったカザルス
ホールが閉鎖になり、新しく音楽ホールを探していましたが、
四ツ谷に紀尾井ホールを発見して早速入会しました。個人
的に室内楽団が好きです。理想的なホールです。演奏し
ている方々が間近で見られて感激しています。室内管弦楽
団の会員にもなり、演奏者との懇親会は毎回楽しんでいま
す。去年はクイズでベートーヴェンのオルゴール(月光)人形
が当たりました。今年ベートーヴェン生誕250年ですので
ハッピーでした。これからも室内管弦楽団を応援していけれ
ばと思います。

渡辺弘次 (埼玉県) / 友の会会員、KCO定期会員

まるでもう一つの家のような場所です。堤の上の道を歩いて
いくと、やがて紀尾井ホールのロビーの温かい光が見えてき
て「今日の演奏会はどうだろう」と心が躍ります。美しいホ
ールに、毎回趣向を凝らした格別なプログラム。そして音楽に
包まれると日頃の瑣末なことを忘れて、音楽が作る世界の中
に入ることができます。こんな安らぎは他にあるでしょうか。こ
れまで演奏会でレーゼル、ケレメン、ヘンヒェン、山勢松韻、宮
下伸など数えきれないほど特別な演奏に接することができた
のはとても稀有なことでした。開館25周年は感染症の危機に
直面することになってしまいましたが、演奏家、スタッフ、音楽
ファンの皆さんが一人も欠けることなく紀尾井ホールに集まっ
て、また演奏会を作ってくれることを強く願っています。

ピオネール (埼玉県) / KCO定期会員

クラシックが好きで通い続けて7年。お世話になっております。
ベートーヴェン生誕250年の年に紀尾井ホール開館25周年。
まだまだ音楽は続き、人々の心の安らぎを伝え続けてくださ
いますよね♪ もちろん古典の世界も大切に繋いでくださいま
すよね♪ これからも末永く心に響く音を伝えてくださいませ。

kira (東京都) / 友の会会員

第33回 紀尾井友の会イベント

渡辺保氏を迎えて「邦楽、この人この至芸」

インターネット動画配信で開催！

紀尾井ホールの主催公演でもおなじみの渡辺保氏(演劇評論家)をお迎えして、氏が選ぶ邦楽界の名人とその至高の芸について貴重なお話をたっぷりとお届けします。



本イベントについて前号で速報しましたが、今回は新型コロナウイルス感染症対策の「新しい生活様式」に沿った形を模索し、より安心してお楽しみいただける初の試みとして、ホールでは行わずインターネット動画配信のみでの開催に変更します。

日程 / 9月23日(水) <配信開始時刻未定>

料金 / 紀尾井友の会の会員さまには無料で、非会員の皆さまにも有料でご覧いただけます。詳しい視聴方法は、次号に同封するチラシでご案内します。お楽しみに。

※チケット販売や観覧募集は行いません。

※本イベントに併せて実施を予定していたホテルニューオータニ内料亭「千羽鶴」特別昼会席は、大変残念ながら中止いたします。

紀尾井友の会のご案内

ホール開館25周年記念 キャンペーン 期間延長!

現在新規ご入会いただいた方に25周年記念オリジナル・ミニタオルのプレゼントキャンペーン中です。

6月末までの予定でしたが、ご好評につき、**12月末までキャンペーン期間を延長**いたします。この機会にぜひご利用ください。

※詳しくは紀尾井ホールウェブサイト内
(<https://kioihall.jp/tomonokai>)でもご案内しています。



25周年記念オリジナル・ミニタオル

フォトレポート 最近の公演から

2.26(水) 娥歌かるた 素浄瑠璃公演

この日鶴澤燕三師によって近松門左衛門の文楽作品がまた一つ蘇りました。今回は三段目より「重盛館大広間の段」「中宮御所歌かるたの段」を素浄瑠璃で上演し、解説は当時療養中の渡辺保さんに代わり、児玉竜一さんが務め、上演の前に作品や物語について分かりやすくお話いただきました。



解説は児玉竜一さん
「江島生島事件と娥歌かるた」



重盛館大広間の段



中宮御所歌かるたの段

編集 後記

開館25周年を記念して、紀尾井ホールや弊団の活動を支援・ご愛顧くださる各会員の皆さまにメッセージを募集しました。25年の歴史の中で、ホールを訪れたお一人お一人それぞれに思い出がたくさん詰まっています、拝読して胸が熱くなりました。改めて紀尾井ホールはかけがえのない、何にも代えられない場所、そして音楽は本当に特別な力を持っているのだと実感しました。公演再開に向けてしっかりと準備を進めてまいります。

今号の 表紙

『ヴァイオリンとひまわり』
[協力] hanadouraku

日を向く葵。ひまわりは「憧れ」「あなたを幸福にする」などの花言葉を持ち、夏の暑さに負けず太陽に向かって真っすぐに咲く姿は私たちに元気を与えてくれます。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》 A.ラング&ゾーン/日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所
《みやび会員》 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/菅原/住友商事/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほかに匿名2社
《ひびき会員》 オカムラ/きらぼし銀行/高砂熱学工業/竹中工務店/山下設計
《みどり会員》 青鬼運送/赤坂維新號/赤坂 エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/スタインウェイ・ジャパン/西武プロパティーズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士ゼロックス/松尾楽器商会/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージョン/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/有帆
《おおい会員》 青木陽介/石崎智代/磯部治生/井上善雄/片山能輔/久保祐子/倉吉遼介/栗山信子/近藤貴子/佐久間庸行/佐部いく子/志立正嗣/清水 正/清水多美子/清水康子/鈴木 亮/高下謹彦/高橋義徳/田中 進/外山雄三/鳥居荘太/中西達郎/西村勉美/原田清朗/北條哲也/牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/簗輪永世/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿実/横地卓哉
ほかに匿名20名 計104口
(2020年6月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NST日本鉄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/大阪製鐵/丸葉工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シャリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/ジオスター/スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トビー工業/日亜鋼業/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄ソリューションズ/日鉄テックスエンジニア/日鉄ドラム/日鉄日新製鋼/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/三菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業

日本製鉄

(2019年度、匿名一社除く)

紀尾井だより718月号 2020年令和2年7月1日発行 隔頁発行 通巻142号 ●企画編集発行：公益財団法人日本製鉄文化財団 内田勇人 ●編集デザイン印刷：株式会社エイチアンドアールプロモーション

25

KIOI HALL
NIPPON STEEL
Arts Foundation

開館25周年。 感動のその先へ。

公式SNSで最新情報配信中

紀尾井
ホール



紀尾井ホール
室内管弦楽団



チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

紀尾井ホールチケットセンター TEL.03-3237-0061 10:00~18:00(日・祝休)
(夏期休業：2020年8月9日(日)~16日(日))

紀尾井ホール

公益財団法人 にっぽんせいてつ 日本製鉄文化財団
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 Tel.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

